

同級生が紡いでいく「en」くつながり、広がる音の輪

本市の「直方商店街」で活躍している人や団体を集める特別企画。今回は、小学校からの同級生同士で始めた音楽&フードイベント「en」音の輪のメンバーに、開催のきっかけから今後の目標まで、メンバーの「縁」について伺いました！



(写真左から)
栗山敬真さん(以下:栗山さん)
菜美さん
祝丸さん
栗野修一さん(以下:栗野さん)

メンバーを結ぶ「en」

「皆さんがどのように出会い「縁」をつないできたのかを教えてください。」

(栗野) 祝丸とは小学生の時、二人で教室で熱唱する仲でした。

(祝丸) 栗野が歌っていた曲が気になって、それを完璧に歌えるようになるぞって意気込んで。気がつけば夢中で二人でハモってた。栗山さんとはイベントで知り合い、同じ中学の後輩と知って驚きましたね。

(栗山) そうでした。当時は、学年が違ってもみなで、公園やお寺、商店街等のまちなかで遊んでいましたね。

(祝丸) にぎわっている商店街の近くに住んでいる二人が羨ましかったです。今こうしてこの街で一緒に活動していることは、当時の僕が憧れていた景色です。

「祝丸さんと菜美さんはどのように出会ったのですか？」

(祝丸) 新潟県の佐渡島に有名な太鼓チームの研修所があるんですが、相方(菜美さん)とはその同期として出会い、お互い張り合うように練習しました。

(菜美) 厳しい研修生活で出会って、それからずっと一緒ですね。

「まさに縁で結ばれていますね！」

「en～音の輪」とは？

古町にある圓徳寺を舞台とした食や音楽のイベント。「en」という言葉は様々な縁が生まれるようにと名付け、令和5年から毎年春に開催。



菜美さん(愛媛県出身)／祝丸さん(直方市出身)



‘04年 和太鼓デュオ「黒拍子」結成。近年の主な活動として、山蔭神齋80世・創生神楽宗家である表博耀と共に全国で「創生神楽」を奉納。シンセサイザー音楽の第一人者 喜多郎と共に東南アジアツアーへ参加。キーボーディスト 平沼有梨・バイオリニスト古澤巖と共にNHK「京都二条城の桜」生中継に出演。日本の太鼓と小鼓による音楽を主軸とし、独自の演奏スタイルと即興性を持つ邦楽に捉われることのない活動は、観るものに新たな日本の風景を提示する。



栗山 敬真さん(直方市出身)
昨年、開基400年を迎えた浄土真宗本願寺派寿光山 圓徳寺の23代目住職。令和元年に住職を継職。祝丸さん、栗野さんの中学校の後輩。イベントでの出会いをきっかけに交流が始まった。



栗野 修一さん(直方市出身)
(有)明治屋食料品店 代表取締役。2009年に直方市へUターン。家業の他、“次世代につなぐ街へ”の想いで地域行事の参加や地域イベントを企画。祝丸さんとは、小学校からの旧友。

思いが重なり始まった「en」

「縁」が重なった皆さんがイベントを開催する経緯は何だったんでしょうか？

（祝丸）研修所を卒業後は関西を拠点に21年間活動していますが、いつも心のどこかに直方の街の景色があり、地元で寄与できることはないかと考えていました。令和4年夏の帰省の折にバツリ再会した栗野と飲みに行き、彼が商店街などで地域を支える活動をしていることもあり意気投合しました。そこから二気に企画が生まれ、令和5年の春に幕が上がりました。

「縁」が二人をまた引き寄せたんですね。開催場所を圓徳寺に選んだのはなぜなのでしょう？

（栗山）新型コロナウイルスが流行して、地元のにぎわいだけでなくお寺の行事も小規模になったことを嘆いていました。そんな時、栗野さんから「イベントで寺を使わせてほしい」と言われました。何かできたらと思っていたタイミングでの相談だったので、「ご縁だなー」と思い、嬉しくて二つ返事で承諾しました。

「思いがカチツとはまるタイミングでしたね。栗美さんはこの話を聞いた時どう思いましたか？

（栗美）私は愛媛県出身ですが、昔の街並みやレトロな商店街が大好きなんです。しかも演奏依頼の仕事ではなく、祝丸の地元の方々と共にイベントを作り上げていくことに魅力を感じ、きつと面白いことになる！と思いました。



黒拍子パフォーマンスの様子

「en」が目指すモノ

「ここ数年、イベントを通して地域の活性化に尽力していただいている「en」のこれらの目標を教えてください！」

（栗野）巣立って行った人の居場所や、祝丸のようなアーティストが表現できる場所を作って、それを見た子どもたちが何かを感じ取ってくれたらいいと思います。そして、地域に浸透していつてほしいという思いです。縁あって、昨年からイベントのチラシは同級生であるお絵かきクリエイターまりえさんに描いてもらっています。

（祝丸）今ももうあの頃にように無邪気に遊んでいられる訳じゃないけど、こどもが全力で遊んでいるかのように大人が大マジメで打ち込んでいる姿を見せたい。その結果として僕の好きな直方や愛おしい商店街のより良い未来につながる如果能够あれば素敵だなと思っています。

（栗野）ふと思えば、数年前に祝丸と話した時から、私たちの活動の拠点は圓徳寺を思い描いていたんだと思います。

（栗山）enの音の輪のイベントを通して、多くの出会いがあり、またお寺の新たな可能性も感じました。先達方のおかげで、この地に長年護持されてきたお寺として、これからも色んな形で地域に貢献できればと思っています。

「以上でインタビューは終了です。本日は貴重な時間をありがとうございました！」

インタビュー 甲斐（商工観光課 商業観光係）



※「en～音の輪」は今年は4/5(土)に開催予定です。
詳しくはen～音の輪のInstagramをご確認ください。



※須崎町公園と明治町商店街の間に位置する圓徳寺